

## 6 . 今後の対応方針（事務局案）

### （1）事業の必要性に関する視点

<sup>しもすわまち</sup> 下諏訪町、<sup>おかやし</sup> 岡谷市内には<sup>すわこ</sup> 諏訪湖や<sup>すわたいしゃ</sup> 諏訪大社など観光資源や精密機械工場が点在し、交通量が多く慢性的な交通渋滞が発生しています。また、歩道幅員が1.0m以下の狭い区間が約4割もあり、利用者に危険な状況となっています。このため、当該地の交通混雑緩和及び交通安全確保に寄与するためには、今後も更なる推進が必要です。

### （2）事業進捗の見込みの視点

未開通区間については、約1割が用地買収が済んでいます。

また、<sup>しもすわ</sup> 下諏訪・<sup>おかや</sup> 岡谷バイパスと接続する国道142号の改良整備については、<sup>しもすわ</sup> 諏訪大社下社秋宮周辺の「街なみ環境整備事業（H27まで）」が進められており、これらの事業と調整し、一体的な整備をする事で、国道20号の損失時間改善効果並びに観光への支援が期待されます。一方、渋滞の抜本的な解決には到っていないため、<sup>しもすわ</sup> 下諏訪バイパスとの連携が必要不可欠となっています。

### （3）コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

今後のコスト縮減方法としては、工事施工における新技術の積極的活用など、さらなるコスト縮減に努めるとともに、工期短縮を図り、併せて整備効果の早期発現を図ります。

### （4）対応方針

当事業は継続が妥当と考え、<sup>しもすわ</sup> 下諏訪バイパスの整備の動向や国道142号の改良整備等の進捗を勘案し、今後概ね10年での暫定2車線の全線開通を目指し、計画的に事業推進を図っていきます。